

マツカレハ

春にマツの葉を食害する大形のケムシ（幼虫）。最大長約80mm。背中の方の黒い短毛がまとまって生える部分が2カ所ある。

まれながら多発し、マツを枯らすことがある。



1. 老齢幼虫（中央）と繭（上），1985/7. 美唄市.

【学名】 *Dendrolimus spectabilis*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , カレハガ科 (Lasiocampidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国, 九州; サハリン, 朝鮮半島, シベリア南東部.

【生態】

アカマツ, クロマツ, ストローブマツなどの大きな木に発生する。

年1世代。30mm程度の幼虫のときに、幹の割れ目や樹皮の隙間などで越冬する。翌春、再び食害を行い成長する。6～7月に幹や枝上に繭を作って蛹になる。蛹は7～8月に成虫になる。雌成虫は卵を針葉上に並べて産み付ける。孵化した幼虫は秋に葉を食べるが、小さいため食害は目立たない。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
幼虫（越冬）	+++	+++						+++	+++
幼虫（摂食・成長）		■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■
蛹				◇	◇ ◇ ◇	◇ ◇ ◇			
成虫・卵					○ ○ ○	○ ○ ○			

【被害と防除】

森林や庭などのマツにまれながら多発し木を枯らすことがある。森林では農薬の空中散布以外の防除方法は確立されていない。街路樹などでは秋に幹にむしろを巻いて予防する。むしろの中に幼虫が越冬のため集まる。冬にむしろをあつめて処理する。毛虫の体毛が皮膚に刺さることがあるので、ゴム手袋をすること。また、むしろをはずしたときに幹の方にも毛虫がついているのでピンセットで取り除く。

農薬による駆除が必要と判断される場合はマツカレハ用の農薬を幼虫に散布する。エトフェンプロックス、クロルピリホスメチル、ジフルベンズロン、ダイアジノン、DEP、MEPなどがある。農薬は取扱説明書に従って使用すること。薬剤散布にあたっては通行人や近くの住民等に十分配慮すること。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

マツカレハ [karehaga/matukare/
kaisetu.htm](http://karehaga/matukare/kaisetu.htm)

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/24.
yochu.jpg

「写真1」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1985.